

【蛍と学校生活】

今年も体育館の裏に蛍が見られる季節になりました。暗くなってからしか見えないので、生徒の目に触れる機会がないのを残念に思います。



南花中のヒメボタル

じゃんけんで 負けて蛍に 生まれたの

池田澄子

蛍の成虫は1~2週間で短い生涯を終えます。蛍に生まれるか人に生まれるか、じゃんけんという偶然で決まってしまう割には、ずいぶん違った一生のように思います。それでもその1~2週間の間に、人の目にはかすかにしか映らないものの、蛍は全力で光を放っています。生きている間に精一杯に光を放つことと、自分自身を懸命に輝かせようとするのは、蛍と人に共通しているところかもしれません。

学校生活で生徒が輝く場面はたくさんありますが、やはり行事の時に多く見られます。今月は各学年の宿泊行事があり、3学年とも事前準備に取り組んでいます。また、2学期のDF(ダイナミック・フェスティバル)に向けて、各学級の担当者の話し合いも始まりました。それぞれの行事の中で、一人ひとりの生徒が輝きを放ってくれることを期待しています。

学問は 尻から抜ける ほたる哉

与謝蕪村



蛍と学問といえば「蛍雪の功」ですが、その学び方が重要です。ただ単に知識を丸暗記するような勉強の仕方では、この俳句のようにお尻から抜けて出ていってしまうのかもしれません。本校では、学んだことは使えてこそ値打ちがあるという新しい指導要領の趣旨に沿って学習活動を進めています。

例えば、1年生の社会科では、世界各国の国旗について色やデザインの意味を学び、その知識を活用して各生徒がオリジナルの国旗を考えました。「平和を表す〇〇と、国民が仲よく暮らすイメージの〇〇を組み合わせて、この国旗にしました」というようにしっかりと理由も述べています。1年生でここまで考えて表現できるのかと感心させられるものばかりです。お尻から抜け出ていく知識の詰込みではなく、血となり肉となる学習の在り方を追求するため、我々教職員も学び続けなければなりません。

校長 上代婦美子

★5月6日(金)全学年合同体育

体育の集団行動を1年生から3年生全学年が同時に授業を行いました。全学年が男女に分かれた後、各学年が混ざった小グループをつくり、3年生が中心になって教えていきます。最初は緊張していた1年生ですがやわらかい雰囲気の中、次第に声をそろえて活動することができました。南花中の規模だからこそできるつながり、学び合うあたたかい授業でした。



★5月6日(金)2年生技術

今年度も地域の方に協力して頂き、技術の実習が始まりました。一本の材木からのこぎりを使ってひとつづつ部品を切り出していきます。市販のキットではなく、一から作り上げる貴重な経験をする事ができています。



★5月11日(水)スポーツテスト

前日にバレー部と陸上部が協力して準備を行い、スポーツテストを行いました。50m走やハンドボール投げなど生徒が一生懸命に取り組む姿を見ることができました。



ポイントづくり

ハンドボール投げ

★5月12日(木)全校集会

この日の全校集会では各委員長の認証式が行われました。各委員長からはそれぞれの抱負が力強く述べられました。また、校長からは命について、生徒指導からはダイナミックフェスティバルの取り組みについての話がありました。また今年度の太鼓組の募集がありました。



委員長の抱負

太鼓組

★5月17日(火)避難訓練

理科室から火災が発生したという想定で避難訓練を行いました。どの学年も真剣に静かに行動することができました。教頭からは、ここ一番の時には普段している行動がでること、何事も経験したこと・経験してないことの違いについての話がありました。



★5月23日(月)3年生しおりとじ・平和実行委員会

修学旅行まであと1週間、学活の時間でしおり綴じを行いました。大きな行事に胸を膨らませながらできたしおりを読み込んでいました。

放課後3年生の実行委員のメンバーが集まって修学旅行の式典のための打ち合わせを行っていました。クロームブックを駆使し、文章を共有しながら作っていました。



しおりとじ

実行委員

